

洗礼  
準備

コース



# 洗礼準備コース

---

## Contents ●目次

---

### 第1回

---

#### 「神様はどのようなお方か？」

1. 神様はどのようなお方か.....2
2. 神様は私たちに何を願っておられるのか.....3

### 第2回

---

#### 「イエス様を信じてクリスチャンになるためには？」

1. クリスチャンとは？ .....4
2. クリスチャンになるには？ .....4
3. キリストのからだである教会に所属しよう！ .....5

### 第3回

---

#### 「イエス様を信じる人の生活とは？」

1. 聖書を読む .....6
2. 毎日祈る.....6
3. 礼拝に出席する .....6
4. 奉仕・献金する .....7
5. 伝道する.....7

## 第1回「神様はどのようなお方か？」

天地万物の創造主である神様は、私たち一人ひとりに特別でユニークな計画を用意されています。神様はどのようなお方なのでしょう。また、「イエスは主」と信じて神様の子どもとされた私たちに、「お父さん」である神様は何を願っておられるのでしょうか。

### 1. 神様はどのようなお方か

#### (1) 神様は偉大で完全なお方です

- ①天におられる霊的な存在です(ヨハネ 1:18、4:24)
- ②人格を持った存在であり、語り、怒り、憐れむお方です(出エジプト 20:5~6)
- ③永遠、不変、無限です(1テモテ 6:16、詩篇 90:2)
- ④全知(すべてを知り)全能(なんでも出来る)のお方です(マタイ 10:29-30、ルカ 1:37)
- ⑤どこにでも存在されるお方です(詩篇 139:7-10、エレミヤ 23:23-24)

#### (2) 神様は聖であり、愛である良いお方です

神様は、上記のような偉大さと完全さをお持ちであると同時に、慈しみ深く、愛と憐れみに満ちた良いお方です。

##### ①聖であり、義なるお方です(出エジプト 15:11、イザヤ 5:16、詩篇 96:13)

神様の大切な性質の一つは、「神様は聖なる、義なるお方」ということです。「聖」とは分離したという意味です。人間とは異なり、完全な正しさがあり、一点の汚れも不義も赦しません。そのため、神様の基準からすると、すべての人は神様の前では失格者ということになります。

##### ②愛なるお方です(イザヤ 43:4、1ヨハネ 4:8~12)

神様の聖さと義が桁外れて厳しいように、神様の愛も桁外れに大きいのです。神様の御子なるイエス・キリストは、私たちを救うために私たちと同じ肉を持つ人間となり、すべての罪の身代わりとして十字架で死なれ、その愛を示されました。私たちは、イエス様の十字架の死と復活によって与えられた神様の大きな愛を信じるだけで、神様の前に聖なる者・義なる者とされる特権を得ているのです！

#### (3) 神様は愛によって完全にひとつである三位一体のお方です

「三位一体」という用語自体は聖書には出てきませんが、聖書は、神は唯一である(申命記 6:4)と同時に、父、子、聖霊という三つの異なった人格を持っていると語っています(マタイ 28:19)。

神様の全てを被造物である人間の頭で理解することはできません。「三位一体」の教えは信じるものであり、人間の限られた知性では、完全に理解しようとしても十分に理解することはできません。神様は人知を超えたお方なのです(イザヤ 55:8~11)。

## 2. 神様は私たちに何を願っておられるのか

### (1) 神様は私たちとともに歩み、祝福したいと願っておられます

私たちの造り主である神様は、私たちに関わり、祝福したいと願っておられます。

最初の人アダム以来、人間は神から背を向け、自分勝手な道へと進みました。聖書の「罪」は「的外れ」を意味します。私たちが神様という的を外れて歩むとき、その行き着く先は「死」です。神様は愛なるお方なので、だれ一人として死ぬことを望んでおられません。そこで、神様はそのひとり子であるイエス・キリストを遣わし、この方を通して私たちが救おうとされたのです(ヨハネ 3:16)。

「イエスを主」と信じる者には永遠の命が与えられ、「神の国」の一員とされる特権が与えられます。「神の国」とは、神様の力とご性質がそのまま実現しているところです。「神の国」は、恵み溢れる神様のご支配があり、神の愛、聖さ、義、全能の力が完全に現われています。そこには、キリストによる救い、癒し、解放が満ち溢れています。

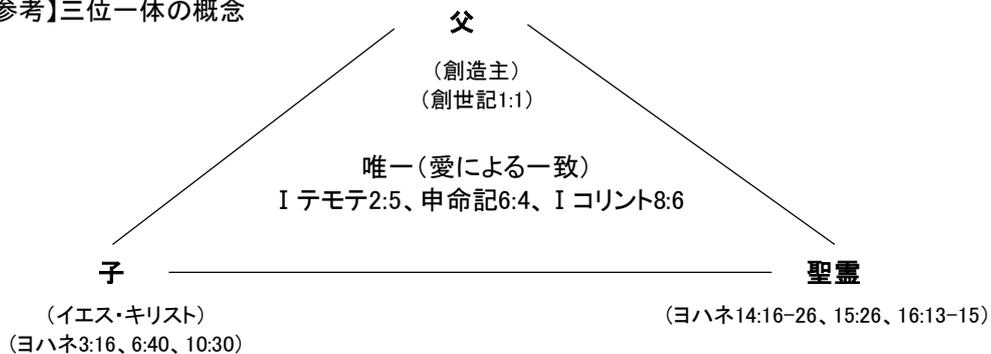
イエス様を主としてお迎えする時、私たちのからだは神の神殿(神の住まい)となり、その保証として聖霊様が私たちの内に住まわれます(I コリント 3:16)。私たちは聖霊様とともに歩む者とされ、「神の国」の祝福に生きる者へと変えられるのです。

### (2) 神様は私たちを通して、人々が祝福されることを願っておられます

私たちが祝福してくださる神様は、私たちが神の国の祝福を他の人々に押し流していくことを願っておられます。

約 4000 年前、神様は一人の人アブラハムを選び、アブラハムとその子孫であるイスラエル民族を通して、神の国の祝福を回復することを計画されました。そして、アブラハムに約束されたとおりに、その約 2000 年後にイエス様がアブラハムの子孫としてこの地に来られました。そして、イエス様は、信じる全ての者を神の国の祝福に導くために、十字架による贖いの御業を完成され、復活されました。私たちも信仰によるアブラハムの子孫として、人々に神の国の祝福を与えていく使命が与えられています。神様は、私たち一人ひとりを通して、神の国の祝福が拡大していくことを願っておられるのです。神様が私たちが神の国の祝福の基として用いてくださることに感謝します！

#### 【参考】三位一体の概念



## 第2回「イエス様を信じてクリスチャンになるためには？」

イエス様を信じる者は救われ、神の子どもとされます。今回の学びでは、クリスチャンとは何か、クリスチャンとなるにはどうすればよいか、また、クリスチャンの集まりである「教会」について学んでいきましょう。

### 1. クリスチャンとは？

「クリスチャン」という言葉は、ギリシャ語のクリストヤノス(英語で Christianos)が語源で、「キリストの奴隷」という意味から、「キリストの弟子」「キリスト者」のことを指します。

この呼称は、AD43年頃、弟子たちに対してキリスト者ではない人々によって用いられました(使徒 11:26)。当時は、「キリスト命野郎」というような差別的な意味で使われていたようですが、後に使徒達が自分たちの呼称として受け入れたようです。

クリスチャンとは、次のように定義することができます。

- ① 自分中心の歩みから立ち返って悔い改め、「イエスは主」と信じ告白した人  
(エペソ 2:1~6)
- ② 日々祈りとみことばに従い、聖霊様により頼んで歩む人(エペソ 6:14~18)
- ③ キリストのからだなる教会に属し、神様のご計画の実現のために生きる人  
(I ペテロ 2:9~10)

### 2. クリスチャンになるには？

#### (1) 信仰告白と悔い改め

聖書は、神様から離れて自分勝手な道を歩んでいる状態のことを「罪」と語っています。この自己中心の「罪」を悔い改め、イエス様を「主」と信じ、口で告白することによって救われます。私たちが心の底から「イエス様が私の主である！」と、告白することができるなら、もう既に聖霊様の助けがあなたの内にあります。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」(ローマ 10:9~10)

#### (2) 洗礼を受ける

イエス様は、「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。」と語られました(ヨハネ 3:5)。「洗礼」とは、ギリシャ語の「バプティズー」という言葉が使われていますが、「水に沈める、浸す」という意味があります。「洗礼」とは、神様と会衆の前で、自分の罪を悔い改めること、イエス・キリストを信じることを公に告白する行為を表わしています。以下に洗礼を受ける必要がある4つの理由を挙げます。

- ①罪を告白し、方向転換することを明らかにするため(罪の悔い改めの印)
- ②神と人との前でイエス・キリストを信じることを公に告白するため(信仰告白の印)
- ③イエス様が命じ、イエス様も行われた正しい行為であるため  
(イエス様の模範・命令に従う)
- ④神様が愛し、祝福される教会、神の家族となり、神を共に礼拝し人々を祝福する働きに加わるため(キリストのからだへの所属)

### 3. キリストのからだである教会に所属しよう！

#### (1) 教会とは？

「教会」は建物を指すのではなく、「エクレシア」(ギリシャ語で「召し出された者の集まり」の意)という言葉に表されているように、イエス・キリストを信じるクリスチャンの集まりを指しています。

#### ①神の民

教会は、神の民として、神様の愛と恵みを目に見える形で世に表していく使命を負っています(Ⅰペテロ 2:9～10)。

#### ②神の家族

教会は、神様を天の父に持つ家族であり、兄弟姉妹です(エペソ 2:18～19)。  
喜びも苦しみも共有し、一致し、関係を築いていきます(コロサイ 3:12～15)。

#### (2) 教会に所属しよう！

聖書では、私たちイエス・キリストを信じる一人ひとりが教会に所属し、その一人ひとりに与えられている賜物を持って仕えていくように教えています。この時代、イエス様は教会に権威(神の力)を与え、教会を通して働かれます(マタイ 16:18)。教会はキリストのからだであり、いっさいものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところなのです(エペソ 1:23)。

教会は聖書で以下のように表現されています。

#### ①キリストのからだ

私たち一人ひとりが、キリストのからだの手足として重要な役割を果たします。  
(Ⅰコリント 12:12～28、エペソ 1:15～23、コロサイ 1:24)

#### ②キリストの花嫁

花婿であるイエス様は再びこの地に来られ、教会を花嫁として迎えられます。教会は純真な愛を持ってイエス様にお仕えします。(Ⅱコリント 11:2、エペソ 5:25～27)

#### ③神の宮(建物)

イエス・キリストという土台の上に建てられた神の宮(建物)であり、私たち一人ひとりが大切な材料一つ一つです。(エペソ 2:20～22、4:16、Ⅰペテロ 2:5)

### 第3回「イエス様を信じる人の生活とは？」

「イエスは主！」と宣言し、告白する者たちの歩みには、祝福に至る原則があります(使徒 2:42~47)。イエス様が教えられ、実践された五原則をともに学びましょう。

#### 1. 聖書を読む

第一に、聖書に親しみ、聖書から学び、その教えに従うことです。イエス様も少年の頃から、宮で聖書を話す人から聖書のことばを聞いていました(ルカ 2:46)。聖書は、著者が聖霊に動かされて書いた神のことばであり、イエス様ご自身は「いのちのパン」です。人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによって生きるのです(マタイ 4:4)。

聖書のことばは、現在を生きる私たち一人一人にとって、神様からの特別な力です(1コリント 1:18)。ですから、私たちクリスチャンは、この聖書のことばを心の内に豊かに住まわせていくのです(コロサイ 3:16)。

食物である聖書を読むことなくして、クリスチャン生活を続けることはできません。イエス様の弟子として聖書をよく読み、聖霊様の助けによって理解し、実践していくことが、私たちクリスチャンの本当の成長です。新約聖書の大部分を記したパウロも、「聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい」(1テモテ 4:13)と私たちに勧めています。

#### 2. 毎日祈る

第二に、毎日祈ること、何事も自分の能力だけに頼らないで、全能の神の力に信頼することです。祈りは、クリスチャンの呼吸にもたとえることができます。呼吸しないで生きている人がいないように、祈りなしでクリスチャン生活を送り続けることはできません。祈りは、「神様の御心の中心に進んでいく」行為であり、聖霊様によって私たちが創造主なる神様に拠り頼んで生きていくように、神様とのコミュニケーションとして、私たちに与えられている恵みなのです。

イエス様も、「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」と私たちに教えています(ルカ 18:1)。また、イエス様は私たちにどのように祈るべきかを教えておられます(マタイ 6:9~13)。この「弟子の祈り」を日々祈り、神様のご計画が私たち一人ひとりを通しても実現していくように祈っていきましょう。

#### 3. 礼拝に出席する

第三に、聖日の礼拝やその他の集まりに忠実に集うことです。一人で信仰を保つことは困難です。礼拝(英語で worship)のギリシャ語の語源は、「第一とする」という意味です。私たちが、色々な忙しさや義務の中から、「まず神の国とその義とを第一に求めなさい」(マタイ 6:33)という、イエス様のことばを真摯に受け止めることが大切です。ですから、「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし

## 洗礼準備コース

---

合い、かの日(主の再臨)が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」(ヘブル 10:25)とあるように、共に集まる神の家族に感謝しつつ、出来る限りの礼拝・集会に集い、神を第一とし、霊とまことをもって主を礼拝しましょう(ヨハネ 4:23)。

また、毎回の礼拝・集会に限らず、私たちが遣わされている場所で、「聖霊の宮」として主を心にお迎えして歩むことが大切です。その意味では、毎日が礼拝であり、職場、学校、家庭、どこにしようとも礼拝することができます。私たちができる最高の礼拝は、自分自身を神様にお捧げすることです(ローマ 12:1)。

### 4. 奉仕・献金する

また、聖書では、救われたクリスチャンがともに励まし合い、助け合い、補い合いながら、キリストの教会を建て上げていくように教えられています。そのために必要な賜物(神様からの贈り物としての資質や技能)は、それぞれに与えられています。ぜひ、教会の奉仕の働きに加わっていきましょう(I コリ 12:27、I ペテロ 4:11)。

献金とは、与えられている経済の収入の中から、自主的に「十分の一献金」と「その他の献金」を捧げることです。奉仕の中でも、献金は神様に対する献身を示し、教会を通して人々を祝福していくという実践を伴う大切な奉仕です。私たちは「神が第一である」という心の態度を行為で示す方法として、聖書の教えに従い、「十分の一献金」と「その他の献金」を捧げています(マラキ 3:10)。

この教会では、「十分の一献金」は教会で仕える人の生活費等に、「その他の献金」は教会活動の運営や、国内外の宣教サポート、次世代の育成等に用いられています。イエス様は、実際に捧げられる金額そのものより、一人ひとりがどのような心の態度で捧げるのかに興味があります(マルコ 12:41~43)。

「ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してください。」(II コリント 9:7)

### 5. 伝道する

最後に、伝道することです。神様の素晴らしい福音を自分の持っている賜物や技術、その他すべてを用いて家族や友人、その他すべての人々に伝えることです。伝道はイエス様の命令であり(マタイ 28:18~20)、私たちが救われたのは、それぞれに与えられた賜物を用いて、キリストを伝え、キリストの弟子を建て上げるためなのです。そして、そのために必要な知恵や力が、聖霊様によって、豊かに、惜しみなく、求める私たちに与えられるのです(マタイ 7:7)。

「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」(I ペテロ 2:9)



表紙のデザインは、エルサレム旧市街にあるクライストチャーチのステンドグラスを参考にしています。  
イスラエルを通して全世界を祝福するという神様が与えた契約を、オリーブの木の根と幹、栽培種の枝であるユダヤ人(メノラー)で表し、イエス・キリストによってそこに接ぎ木された野生種の異邦人クリスチャン(十字架)を表しています。

イエス・キリストが再びこの地に戻って来られるとき、イスラエルと異邦人の救いは完成し、すべてのものはキリストにあって一つとされます。

( 聖書参照箇所：創世 12:1-3、ロマ 11:11-24、エペ 2:11-22 他 )